

# 大豆特報

魚津市  
魚津市農業技術者協議会

大豆は、単作及び麦跡とともに順調に生育し、開花期を迎えていきます。  
適期の防除と畦間かん水などで、収量や品質向上に努めましょう。

## 病害虫防除

～大豆の生育と病害虫の発生にあわせて、適期に実施する～

体 系	回数	散 布 農 薬 名	10a当たり 散 布 量	収穫前 日 数
基本防除	1回目	アミスター20フロアブル	16倍 0.8ℓ	7日
		スミチオン乳剤	8倍 0.8ℓ	21日
	2回目	トライフロアブル	8倍 0.8ℓ	14日
		トレボンエアー	8倍 0.8ℓ	14日
粉剤	1回目	トライトレボン粉剤DL	3kg	14日
	2回目	トライトレボン粉剤DL	3kg	14日
随時	ハスモンヨトウ（液剤）	プレバソンフロアブル5	16倍 0.8ℓ	7日
	葉焼病（シュウレイのみ）	Zボルドー	500倍 100ℓ	—

※葉焼病の防除は、7月下旬～8月上旬（開花期）が目安です（ドローンなどの無人航空機では散布できません）。

※基本防除の1回目は「莢が伸び切った頃」、2回目は「豆が十分に膨らんだ頃」が散布時期の目安です。

## 畦間かん水

～9月上旬ごろまで、ほ場の乾燥に注意しましょう～

- 晴天日が3日以上続き、ほ場が乾いてきたら、早めに畦間かん水を行いましょう。
- かん水は、ほ場全体に水が行きわたったら、速やかに落水しましょう。  
水をためたままにすると湿害が発生する原因となります。



大豆の葉が水分不足で裏返る前に、  
畦間かん水をしましよう！

### 【畦間かん水の効果】

#### ①莢数の確保

- ・落花・落莢の防止  
(青立ちの発生防止)

ちりめんじわ



#### ②百粒重の増加

- ・根の養水分吸収量の増加
- ・光合成の促進
- ・根粒による窒素固定能の維持

しみ状斑紋



#### ③品質の向上

- ・ちりめんじわ粒の発生防止
- ・茶色のしみ状斑紋粒（高温に伴う物理的損傷）の発生防止